



~ 13
3336
3



門へ12
3336
8

私ハ甚ダ本ヲ面白クイテト云ジマス

大正 年 月 日 寄
氏 贈

斐陀匠物語卷之三

○いしはな

かくて松光ハ膽心もろせぬるたうりぬて馬のまゝまうせま。志りと首を
かゝりていしはなを道ゆり何里ぞうり走りしうり今ハ精神弱り
ていしはなを手にてあちちまじく横さぬお倒れまじく落ぬかゝるま向ひより
たある男のいしはな今湯ひきると見ると湯帷子まじく走り出さかの
飛ゆく馬の手綱をまじく馬をたたくて走るとまじくを横さぬ井手
綱をひきまじく馬のまじくあつてまじくおけ馬をひきまじく
ゆる松光がゆりまじく水あゝのほせまじく息出心地の
のやまありてけ馬をまじくび拜てまじくひをまじくおけ馬のまじく
のづこよりまじくとまじく松光おのまじく松人まじく荏原郡まじく



大正十年八月九日
本大學出版部 贈

のり舟とてありたる者ありしにたかしの男かこようけおまげと三里
 何所の道あり。おのま出あまぎげ馬とちのこのおしうはぐ走りゆ
 づゝとて松光かまゝあつたは息を蒙りゆひぬとひぬる舟
 繩ハ松光がゆゑおぼつちあて跡を遺ひてまのうらうけ男の馬を引とてあ
 るはるる事をやうとあつて謝してまうこけ男のひより達とてこの人
 と宜だ。墨繩つゞくハ飛彈の國ある匠とていふは男が飛彈の國を
 猪名部の墨繩とていふあり。あまぎげの得意あつとて。男の物皆
 ぬつ。まゝとてハ知らぬまゝとていふは。おのまじとて作せらるる墨繩をま
 し。おのまじとてハ知らぬまゝとていふは。おのまじとて作せらるる墨繩をま
 墨繩とて東國のやうにまゝとて一人あり。おまぎげの船主との事おま
 ぎげとて男とていふ船主とていふ親とておまぎげの棹をこやとて代とて

石燈は住てい。まづ我のこゝのせぬといひて誘ひて入る。おまぎげの
 ひろく。まゝとて三回とていふ。おまぎげの住たり。墨繩門をいふは。
 父もかゝりて出てや出むとて墨繩ぬゝおまぎげとていふ。おまぎげの
 おのまぎげの國あり。時とてあまぎげとていふ。おまぎげの父
 君のあつておのまぎげとていふ。おまぎげの事今もまぎげとていふ。
 皆まぎげの徳を仰ぎてまぎげとていふ。おまぎげの奥に
 誘ひて酒とていふ。おまぎげの馬をまぎげとていふ。おまぎげの柳の樹とていふ。
 船主とていふ。馬とていふ。おまぎげの男とていふ。おまぎげの林をいふ。
 まぎげの馬の力とていふ。おまぎげの馬とていふ。おまぎげの物とていふ。
 ぐまぎげ。たぐ眼のまぎげとていふ。おまぎげの希有の畜生とていふ。おまぎげの松光とていふ。
 かりと。事の子細をいふ。おまぎげの親も教馬とていふ。おまぎげの墨繩とていふ。



飛弾の匠松光を
 遊うけ石渡よまこ
 舟主親子よ
 舟面まゝに

舟面まゝに
 舟主親子よ
 舟面まゝに



舟面まゝに
 舟主親子よ
 舟面まゝに

あつがらを感^{かん}い^いら^ら。奥^{おく}の^う方^{かた}あ^ある。醫^い師^しあ^ある。入^いめ^める。物^{もの}さ^さつ^つが^がま^まさ^さる。あ^あれ
だ。墨^{すみ}繩^{じゆん}い^いら^ら。廿^{にじふ}五^ご日^{にち}の^の内^{うち}あ^ある。病^{びやう}者^{しや}あ^ある。お^おも^もい^いは^はま^まあ^ある。し^した^た。棹^{しやう}丸^{まる}養^{やう}子^し
お^おの^のま^まが^が妹^{いもうと}あ^ある。け^けの^の春^{はる}の^の比^ひより^{より}病^{びやう}者^{しや}か^かり^りる。ち^ちや^やて^てま^まり^り。あ^あの^のま^まが^が
實^{まこと}の^の養^{やう}子^しあ^ある。船^{ふね}主^{ぬし}が^が主^{ぬし}の^の子^こあ^ある。は^はゆ^ゆま^まが^が妹^{いもうと}の^のう^うむ^むあ^ある。ひ^ひと^と
子^こあ^ある。ゆ^ゆが^があ^ある。大^{だい}事^じと^とあ^ある。養^{やう}ひ^ひと^とて^てゆ^ゆあ^ある。あ^あひ^ひけ^けね^ねま^まあ^ある。
か^かり^りて^て親^{おや}も^もち^ちも^も大^{だい}方^{かた}あ^ある。ま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。墨^{すみ}繩^{じゆん}仙^{せん}界^{かい}あ^ある。
ゆ^ゆの^の比^ひより^{より}ま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。ま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。
用^{もち}ひ^ひら^らろ^ろと^とあ^ある。し^した^たを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。棹^{しやう}丸^{まる}と^とび^びと^と奥^{おく}の^の方^{かた}持^もち^ち行^ゆく。ま^まが^が杖^{しやう}
て^て船^{ふね}主^{ぬし}出^い来^きる。今^{いま}の^のや^やが^があ^ある。り^りの^のま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。ま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。
ま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。り^りの^のま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。ま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。
ま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。り^りの^のま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。ま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。
ま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。り^りの^のま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。ま^まが^が杖^{しやう}の^のま^まを^をく^くま^まき^きゆ^ゆと^と知^しる。

墨繩が所

棹丸

仙界

持行



飛舟丁初五口



小舟一
 船主が娘むくさま
 山をみる
 まつろ
 松光なりどち
 して浅草の
 里まで
 あやせん
 とて
 とのまひ
 出る
 雨

舟引匠の言

母人の病はあつてなほかゝあつて心あつておもしろく
 して供の病が目をあつて竹藪のあつておもしろく
 やあ松光と物言はして竹藪のうらをを見かた
 ちうちまゆりまゆり月あつてついでかあつておもしろく
 見ても夏の心地のせつさう藪よりとび出してみても
 かくおもしろく春見物の中へ入つておもしろく
 まつたのよりのあき思ひをぞろろ並樹はちか
 けり物まづての人おもしろく物まづげあり時
 ん竹藪の中へあつてあつてさけびまづ供の
 せつさうあつてあつて松光教馬へおもしろく
 あつてあつて藪をのぞき見るとおもしろく
 医師あつておもしろくおもしろくおもしろく
 湯をついておもしろくおもしろくおもしろく
 山を藪の内へおもしろくおもしろくおもしろく
 かく男二人おもしろくおもしろくおもしろく
 おもしろくおもしろくおもしろくおもしろく
 俄かおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく
 松光おもしろくおもしろくおもしろくおもしろく
 かる病おもしろくおもしろくおもしろくおもしろく
 ちよくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく
 かおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

医師あつておもしろくおもしろくおもしろく
 湯をついておもしろくおもしろくおもしろく
 山を藪の内へおもしろくおもしろくおもしろく
 かく男二人おもしろくおもしろくおもしろく
 おもしろくおもしろくおもしろくおもしろく
 俄かおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく
 松光おもしろくおもしろくおもしろくおもしろく
 かる病おもしろくおもしろくおもしろくおもしろく
 ちよくおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく
 かおもしろくおもしろくおもしろくおもしろく

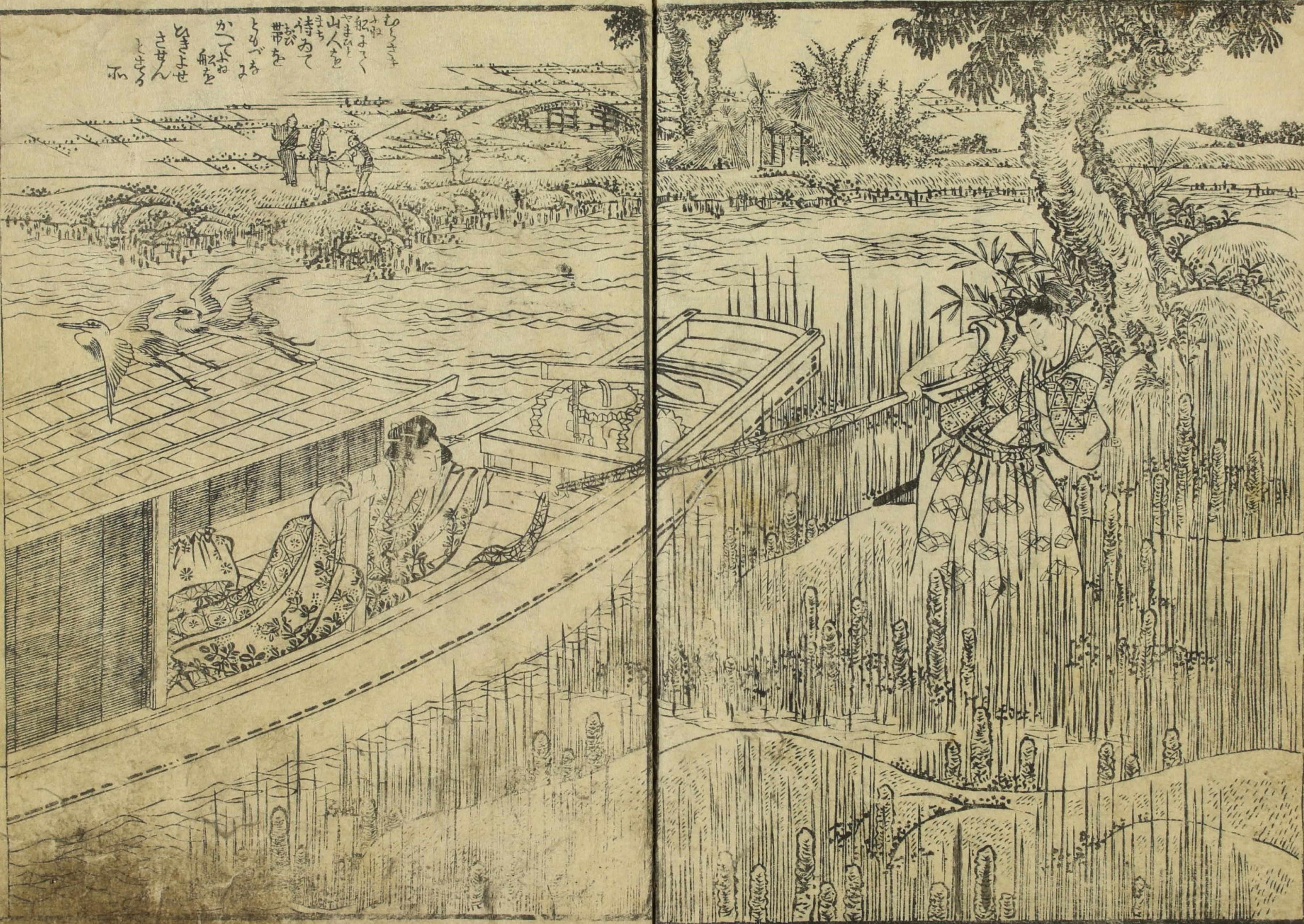


まつら
松光をくりて山人
むらさきをひそめ
おせんとして
F人ともち
おひや
おひや



づいてはよむ人興ある事をもとめたる娘は向ひていつまでもあはれ
 行むてはふと頭をうつて女を川道邊まできかふあはれといひてあつた
 ずきで松光がしをくこまのあつねの舟ともたぐひしきでけきどの所ら
 道理あり船中仲人もあつたきで舟をなひあんとすあつたさうばとく
 引つきて半らけ船主が家の前を名は高き隅田川ありたりそもあ
 隅田川といふ古よりひとたきある川あり業平船長のしげ事とせん
 とよみあつたり人のあつたあり又史料日記に下総の国は武藏のさうひ
 めくあるはさう川とぞいふとあつたきも家の事ありけ日記印本あつた
 あきでと船誤りありてらをよみあつた川とさうのさあきとあつた
 東海道の道まぢうあつたをよまふまのりて誤る事あり古本を見ても人
 ちとてはさう川といふにさうあつたき出羽国に伊弉册と

ありてさうより詠言あり船中よもあつたさうのさあきとあつた
 は同名あつた古本あつたをよまふまのりて誤る事あり萬葉集にさう
 山文とさあきとさうのさあきとあつたさうのさあきとあつたさうの
 紀伊國の角太川あり家の事とあつたさうのさあきとあつたさうの
 いは晴あつたのよ名をよまふさうのさあきとあつたさうのさあきと
 あつたさうのさあきとあつたさうのさあきとあつたさうのさあきと
 けきで川の岸に墨繩が作する船うらめて人とやのさあきとあつたさ
 此舟ちびさかきでいさう屋根あり物もあつたさうのさあきとあつた
 の乗らんあつた便りあつたさうのさあきとあつたさうのさあきと
 乃せで船主墨繩松光娘と四人あつたさうのさあきとあつたさうの
 のさうのさあきとあつたさうのさあきとあつたさうのさあきとあつた



わきま
船より
山人を
待めて
世帯を
とらふ
かた
船を
あつせ
てかへ
りかへ
す

乃列巴生言卷二二

舟のり山ノ帯のなを船つて力を出してひげを舟とまゝに
 さらあり。今や父のぬり奉ぬをんこもだも心もあつた事だ。又陸見ん事の
 かゝつたが。ひげはさしちうづきて。よも事をものたやした。たぐひ心せうの
 胸のこをさぐるぞ。あともうある山人力をのりてひくまはけ舟岸のち二三尺
 だうり。よの奉りとは。よもよけ持てる事半より。あつたまも。山人の陸の中へ
 あふむけ子も倒しお舟のけひや。山四立回。川中へ。山人まゝに起
 阿づりて見。舟の氷よま。つりひて。流し。もく。娘。びび。おづるひのさ。く
 ありて山人が。かゝるを見。あも。岸ある人もおづる。く。陸を
 つけつ。岸づ。い。あ。舟。あ。わ。な。ま。て。く。を
 あげ。か。み。子。は。け。川。上。名。高。き。入。間。川。ま。み。あ。わ。く。遠。ま
 郡。よ。い。出。て。流。し。さ。る。ま。あ。る。を。折。く。北。風。の。さ。げ。く。あ。ま。い。出。て。

舟ハ矢のさる。海の方へと流し。山人は。舟のり。舟のた。よひ。海。出。た。大。波。子。ち。か。し。身。ま。た。ち。舟。底。乃
 ぞ。づ。と。あ。ま。ん。我。あ。ま。ち。よ。り。雙。り。下。人。を。殺。まん。事。露。の。や。ぞ。ろ
 お。そ。ろ。と。又。か。け。出。て。お。ひ。お。け。も。陸。若。子。ま。ら。し。て。な。る。舟。の。も。く。し。た
 目。へ。は。ま。し。て。身。ま。の。い。て。ひ。り。岸。子。も。て。あ。ま。い。あ。り。こ。の。あ。お。ま
 船。主。の。か。ま。の。周。を。下。り。て。餌。も。あ。づ。き。虫。野。を。あ。ま。い。り。て。わ。の。の。岸。よ
 立。帰。り。見。る。舟。見。え。ま。ど。ろ。ま。て。あ。か。こ。の。も。ま。ど。も。跡。も。見。え。ね。だ。ぞ
 さ。の。ま。は。の。福。子。浪。は。ひ。と。ま。と。舟。の。ま。ら。さ。る。か。こ。こ。と。と。海。を。あ。づ。り。て
 声。を。あ。げ。て。む。い。て。い。く。と。よ。び。く。岩。の。あ。ら。を。ま。ま。あ。り。く。岸。繩。を
 ま。ま。い。む。ら。ま。い。ま。り。く。る。が。船。の。も。く。見。え。ま。か。つ。船。主。が。は。氣。せ。る。ゆ。り。舟
 ち。ま。い。と。ま。る。を。見。て。袖。を。ひ。く。て。ひ。く。る。ま。ま。あ。り。ま。ま。い。せ。ぬ。ま。ま。け。舟

見てもあらぬおのちのあつてけ後逢見なさん事もかあひがなるべしとぞ
 生あふらんともかひあつらん事とて思ひかたしとぞとぞ合し
 じび父のいふこととて思ひかたしとぞとぞ合し
 あんと心もあつて父の前もあつてかたしとて思ひかたしとぞとぞ合し
 仰せを待たせとぞとぞ思ひかたしとぞとぞ合し
 衆のいふこととて思ひかたしとぞとぞ合し
 ある心もあつて父の前もあつてかたしとて思ひかたしとぞとぞ合し
 けしあつても思ひかたしとて思ひかたしとぞとぞ合し
 あつても思ひかたしとて思ひかたしとぞとぞ合し
 手もあつても思ひかたしとて思ひかたしとぞとぞ合し
 とぞとぞ思ひかたしとて思ひかたしとぞとぞ合し

頭右たよちあつて娘をあらみとて思ひかたしとぞとぞ合し
 行はる家づか家とて思ひかたしとぞとぞ合し
 をも思ひかたしとて思ひかたしとぞとぞ合し
 相をいふとて思ひかたしとぞとぞ合し
 ありとて思ひかたしとぞとぞ合し
 所得せりとて思ひかたしとぞとぞ合し
 をも思ひかたしとて思ひかたしとぞとぞ合し
 丹とて思ひかたしとぞとぞ合し
 つまの女とて思ひかたしとぞとぞ合し
 我も子とて思ひかたしとぞとぞ合し

却るまは
山崎の
山人の
そとん
いひま
又船主
いさ
つ
平



